通信

⊙在韓國京城大橋正堯氏より

去る三日着無事にて候、總てが單調で物にならず少しく失望致候、寫生中韓人と蠅の集り來るには防禦の道なく殆ど閉口、又、砂が飛んで來て畫面に積り筆が動かなくなる、景福宮内の寫生許可を得たる故明日より始むるつもり、内地へ入れば面白き所もあるよしなれど危險なれば參らずあまり長居はせざるつもり云々

六月十一日　京城にて

⊙次に六月末水原より

過日來雨天にて糞が流れ去り少しは耐へよく相成候昨日より當地に參り居候、京城よりは畫題多し、晴天の日十時より三時迄の暑さ繪具箱が熱して火傷するやうで繪具は出したてゞ忽ちカチ〳〵になる、樹蔭に入れば涼風あるのに汗は瀧の如し。昨年の天王寺の比にあらず、夜に入れば浴衣では寒い、これで凌げる云々

因に同氏は既に歸朝の途につかれたり

岐阜洋畫展覽會

六月十二日より三日間岐阜倶樂部樓上に於て當市洋畫同好者二十餘名を叫合し作品の展覽會を開催す。出品總數百二十餘禎專門家の數人を除き他の多數はアマチュアにして何れも渾身の精力を集注せし作品のみなり。

就中主催者は大下、丸山兩氏の作品兩三點の貸與を受け出品せしは同好者に甚く滿足を與うるを得たり。他に水彩畫大禎としては矢野氏の秋、催主の黃昏、後藤氏の木の下蔭等なり。油繪にては櫛田利雄氏の大幅十數點及素人に關はる出品十餘枚にして他は何れも水彩畫のみなりき

尙主催者は此期を利用し會合を組織し時々寫生會、批評會展覽會等を開催し斯道に對する眞趣味を開拓せんとする意見なり（森南涯氏報）

紹介

⊙大日蓮華　山崎紫紅著

題して法華詩篇といふ、藏むるところ『常在』『地獄の卷』『難風』『始めて佐鳥を望み見て』『片瀨の濱に樗牛を思ふ』の五篇のほか附錄として人生及自然を歌ひしもの十ヶ篇を添へたり、現時詩といへば難解を意味し閑人ならぬ吾々如きは止むを得ずその趣味に遠ざかりつゝありしが、いま此書を得て誦ずるに、文字力ありてしかも平易に、詩形新しくして拮屈ならず著者の感想を傳へて遺憾なし。さるにても、此篇を最後として、再び詩に筆を執らじとの著者の宣言は取消とせられたきものなり。（クロース表紙四六判二四〇頁、六十錢、神田富山町左久良書房）

■諸君のうちで洋畫講義錄御不用の方は御讓り下さい、又手本も（大阪市西區江戸堀上通一丁目大島方　元山三秋）

* * * *